

# 通訳の課題

よりよいコミュニケーションのために

# 通訳における課題、問題点

---

- 異言語間で等価なメッセージを実現する
- 異文化間で意思の疎通を達成する
- グローバル化、国際化と通訳者
- 多言語社会における言語支援
- 通訳者に対する社会的認知
- 通訳者の就業と身分
- 通訳教育
- 通訳に関する学術研究

# 通訳者の知識と能力

**メッセージの保持、異言語への転換**

# 通訳者の知識ベース

- 理想的な通訳者は歩く百科事典。しかし……、
  - 理解できないことは訳せない
    - きわめて専門的な内容、社会方言、業界用語、強い訛り  
知らない外国語と同じ
    - 極端に省略された表現、言葉にならない言葉  
話の意図がつかめない、言語化できない
    - 一般常識とかけ離れた風変わりな考え方  
先行き予測困難
- 理解 転換 表出の通訳プロセスにおける最初の段階でつまずいたらそこでおしまい。
- 通訳者の責任？ 我々は超能力者ではない！  
しかし、何とかしなければ仕事にならない……。

# 仕事が始まる前にすべきこと

---

- 知識ベースを引き上げるために
  - いかに要領よく準備するか
    - 専門的な内容について
      - 対応する訳語を調べる方法
      - 概念的な知識の枠組みを作る方法
      - 事前準備にもちいる各種の道具
    - エージェント、クライアント、スピーカー
      - どのように協力を求めるか
      - 関連する資料を提供してもらうには
      - 打ち合わせの持ち方

# 身につけておくべき通訳技能

## ■ 逐次通訳

- 談話の方向性を予測する推論能力
- 談話の論旨展開を把握する分析力
- 談話全体の構成を記憶する保持力
- 記憶容量の限界を補うノートの技術

## ■ 同時通訳

- 理解と同時にTLに変換する反応力
- 適切な位置で切り分ける分析力

## ■ 通訳全般

- 発表力
- 円滑な人間関係を保つ社会人としてのマナー

# 通訳者を取りまく環境

こういう環境で仕事がしたい

# コミュニケーション効果をあげるために

---

- 現場に入る前に
  - 時間的な余裕をもって関連する資料を提供する
  - 特殊な用語には説明をつける
- 通訳しにくい環境とは
  - 外の様子が見えない通訳ブース
  - 声の小さすぎる話し手
  - 騒がしい会場でウィスパリング
  - 真っ暗な会場での原稿読み上げ
  - 通訳中に話しかける人
- 「通訳者のため」ではなくコミュニケーションのために

# 異言語・異文化間コミュニケーション

ことばと文化の違いを乗り越える

# 個別言語に関する課題

- 同一言語内では効果的、しかし異言語間では？
  - 比喩、たとえ話
  - ことわざ、格言、古典の引用
  - 言葉遊びやだじゃれ
    - 意味は訳せるが、音は訳せない。
    - 日本のテレビコマーシャルは外国語に訳せる？
  - 個別言語に固有の問題
  - 共示と外示
  - 内包と外延
  - ハイ・コンテクストとロー・コンテクスト

# 共示と外示

---

## ■ 共示 connotation

言語記号の潜在的・多層的意味をいう。

例えば小学校は、一般的には「義務教育の場」であるが、その共示は、ある人にとっては「懐しい時代」であり、教育学者にとっては「教育制度の一部」である。

## ■ 外示 denotation

言語記号の一般的な意味をいう。

# 内包と外延

- 内包 intension; connotation、外延 extension
  - 内包とは、外延が**共通に有する性質**のこと。「日本人」は「人間」という語の孕む定義に加え、日本国籍を有するとう内包が加わるため内包は増す。しかし外延は、アメリカ人、中国人等が削られるため、減じる。
  - 外延とは**ある概念の適用されるべき事物の範囲**。たとえば「人間」の外延は日本人、アメリカ人、黄色人種、男、女、公務員、サラリーマンなど。
    - 例えば、「人間とは何か」という問に対して「人間とは理性的動物である」と答えた場合、「理性的」、「動物」が「人間」という言葉(あるいは概念)の内包である。
    - 他方、「人間とは何か」という問に対して、「人間とはソクラテスであり、プラトンであり、……」と、皆さんが知っている限りの人々の名前を挙げた場合、それらの例示が人間という言葉(あるいは概念)の外延である。

# 高コンテキスト、低コンテキスト

## ■ コンテキスト(文脈)

- ことばの意味は、文脈なしには正しく理解できない。「文脈」は、社会的な状況や文化的な状況にも適用される。ある社会の成員に共通な行動の様式、価値観、その他の状況を、社会的・文化的コンテキスト (socio-cultural context) と呼ぶ。

## ■ ハイ・コンテキスト文化

- 人々が互いに深くかかわり合っている文化をコンテキストの高い文化と呼び、そこでは、簡単なメッセージでも深い意味をもって伝わる。日本語はハイ・コンテキストの言語であると言われる。

## ■ ロー・コンテキスト文化

- 個別化の度合いが強い文化をコンテキストの低い文化と呼んでいる。

**一言で多くの意味を察してもらえる文化 vs.**

**多くを語らなければ理解されない文化**

# グローバルイズムと英語

**英語は世界共通語か**

# 英語 = 国際語？

## ■ 言語に文化的な価値の優劣はない

- 世界には6000もの言語がある
- どの言語もその母語話者にとってはかけがえのないもの
- どの言語でも必要十分なコミュニケーションが可能

## ■ 政治的・経済的な優位な言語としての英語

- 英語母語話者は3億5千万人
- 英語を公用語とする国の人口は合計14億人

大修館書店『言語学百科事典』

- 世界人口の70%は非英語話者

## ■ 英語母語話者と非英語母語話者のコミュニケーション

- 言語は道具ではなく世界観
- 非母語で話すことの制約
- 通訳者を使うことで解消する「言葉の壁」

# 非英語母語話者と英語通訳者

- 英語の発言しか認めない「国際」会議
  - 英語は世界共通語という幻想
  - 通訳料金節約のため
- 各国に特有な社会状況を知らない英語通訳者
  - 日常的な事柄であればあるほど理解できない
- 第二言語あるいは外国語を話す困難
  - なまり、不適切な語彙、破格な文法
- 英語の強制による非英語通訳市場の縮小
  - ドイツ語、フランス語通訳者の受注減

# 英語と通訳にまつわる実例

- 内容：某企業のアジア地域管理者セミナー
  - 隔年に一回、日本で開催され、アジア地区系列各社の管理職が参加
- 参加国：インドネシア、マレーシア、タイ、台湾等
- 通訳サービス：
  - 英語          インドネシア、マレーシア
  - タイ語        タイ
  - 中国語        台湾
- 形態：ウィスパリングおよび逐次(質疑応答)

# セミナー会場のレイアウト例

英語通訳者

インドネシア マレーシア

講師  
(日本語)



タイ  
タイ語通訳者

台湾  
中国語通訳者

# 英語通訳者の困難

- 英語の通訳者はインドネシア、マレーシアの企業文化や社会状況に関する知識を持っていない
  - 質疑応答の際に参加者の提起する問題点がよく理解できない
  - 相手の状況にあわせた説明の仕方、適切な補足などは行えない
- インドネシア、マレーシアの英語に慣れていない
  - 聞き取りに苦勞する
- 理解されているかどうか自信が持てない
  - 参加者にとって英語はあくまでも外国語

# マレーシアの参加者

- マレーシアの華人社会出身
  - 家庭内言語は潮州語
  - コミュニティ内での言語は広東語
  - 華人社会の共通語是北京官話
  - 日常生活はマレー語で(他民族とも通じる言語)
  - 英語は教育によって習得したもの
- 英語よりは中国語を聞く方が理解しやすい
  - 実際は台湾側の通訳を聞いていた？
- 日常生活で最も使用頻度が高いのはマレー語

# 伝達効果の改善

## ■ 改善案

### ■ インドネシア語、マレー語通訳者の手配

#### ■ デメリット

- コストは高くつく
  - 英語1名体制      二名体制に変更
- 優秀な通訳者を確保することが難しい
  - もしレベルの低い通訳者なら英語のほうがまし。

#### ■ メリット

- 母語で自由にリラックスして質問できる
- 聞き手の社会状況、風俗習慣を理解している通訳者
- 何といたっても理解しやすい

# 社会サービスとしての課題

どのような役割を期待されているのか

# 多民族社会を支える言語支援策

- 多民族国家・日本
  - 愛知県豊田市の119番
    - 十三カ国語で対応(豊田市在住の外国人の母語)
  - 宮城県仙台市消防局
    - 仙台市内で救急車で搬送された外国人:192名(平成12年)
    - 七カ国語の救命カードを用意
- 質の高い言語サービスを提供できない
  - 市町村役場で言語サービスが提供されない
  - 病院で対応可能な言語は英語のみ
  - 通訳は友人やボランティア頼み
  - 医療通訳者の質の低さが特に問題に

# コミュニティ通訳

- 地域社会での生活支援通訳サービス
  - 外国人移民をスムーズに受け入れるため
    - 地域社会のルールを説明する
    - 各種の行政手続き
    - 外国人市民相談窓口業務
    - 子供の学校と両親のコミュニケーション
    - 外国人子女の教育支援(授業の通訳、日本語習)
  - 日本では制度として確立されていない。ほとんどがボランティアが知り合いに依頼される。

# 医療通訳、司法通訳

---

## ■ 医療通訳

- 内容の難しさ、責任の重さ
  - 医療用語や患者の症状を適切に訳出する知識
  - 患者のプライバシーを守る守秘義務
- ボランティア頼みで専門通訳者を派遣する制度が確立されていない
  - 最近、医療通訳者派遣を事業内容とするNPO法人が設立された

## ■ 司法通訳

- 質のばらつき
- 責任の重さのわりに低い待遇

# オーストラリア通訳・翻訳国家認定資格 (NAATI)

- NAATI (The National Accreditation Authority for Translators and Interpreters)
  - 1977年設立、1983年7月1日オーストラリア連邦政府及び州政府から共同出資を受けて、独立組織として再設立
  - 移民局を始め、政府に提出する公式な通訳や、国際的な会議における通訳は、NAATIの公認翻訳家または通訳者でないといけない。
  - NAATIレベル : 準プロ級(コミュニティ・レベルの通訳)
  - NAATIレベル : プロ級(一般通訳・翻訳)
  - NAATIレベル : Advanced (国際会議の通訳)
  - NAATIレベル : 試験ではなく業績で認定(ベテラン)
- NAATI資格取得はオーストラリア永住権取得に有利

# 司法通訳・翻訳者の認定制度

- アメリカ、カナダ、オランダ、ドイツなどには司法通訳者に特化した資格認定制度がある
- 例) アメリカの司法通訳者資格認定制度
  - 1988年 連邦議会による「連邦裁判所通訳人法」制定
  - 法廷通訳に必要な専門的知識を有する人材を要請・確保すること
  - 適切な能力を有する法廷通訳人の名簿作成・公表
  - 法廷通訳人に関する各種データの収集と統計等資料の公表
  - カリフォルニアの法廷通訳人資格試験において、例年500～600人の受験者中、合格率は9%にとどまり、ニューヨーク州においても7.5%となっており、相当高水準の通訳能力を担保しようとしていることが窺える。
  - 裁判所通訳人資格試験(Federal Court Interpreters Examination): スペイン語、ナバホ語、ハイチ・クレオール語
  - 課題: 上記以外の外国語は裁判官の裁量による。